函館のまちづくりを考える
はこまち通信
Vol.33
2015年6月
発行／函館市地域交流まちづくりセンター

日時 2015年7月26日(日) AM10:00～PM2:00

第11回NPOまつり

函館ご当地アイドル「ドリームラバー」ライブステージ

日本舞踊「こ弄々会」子ども達のステージ発表

HBCのもんすけが来る～

箱館チンドン会場ねり歩き

『市民活動NPOってどんな活動をしているの？』
そんな疑問を、楽しみながら
体感できるおまつりです。

市民活動紹介コーナー　飲食コーナー　市民ライブ　市民活動パネル展

同時開催 まちセン 夏休み工作フェスティバル2015

今号の市民活動団体

❶ 函館中途失聴者･難聴者協会　❷ 函館こども劇場

特集 はこまち対談

Part 30

「自分の体に関心を持つこと」が大切です。

今回は、北海道移植医療推進協議会の理事で、道南支部支部長である市立函館病院の木村純院長に腎臓移植の現状について、北海道移植医療協議会道南支部のメンバーでもあり、函館地方腎友会の河村紳司事務局長からは患者さんの立場でのお話をお聞きしました。

木村　純さん

◆プロフィール

市立函館病院院長

1954年東京に生まれる。北海道大学医学部卒、同講師、町立中標津病院副院長等を経て、2003年市立函館病院消化器外科主任医長として着任。
主な公職
北海道医療審議会地域医療部会委員、全国自治体病院協議会北海道支部支部長
北海道移植医療推進協議会理事・道南支部支部長

河村　紳司さん

◆プロフィール

昭和24年函館市生まれ、平成15年働き過ぎからくる、高血圧による腎硬化症発症透析に至る。平成21年函館地方腎友会事務局長、平成22年函館市、北海道、障害者相談員・北海道腎臓病患者協議会筆頭幹事、平成24年北海道移植医療協議会道南支部、メンバー、平成24年難病連函館運営委員

【聞き手】地域交流まちづくりセンター　センター長　丸藤　競

丸藤：腎臓とは、どういう臓器ですか？

木村：腎臓は2つあり、潜在能力の10分の1くらいの働きで生命が維持できます。片方を病気で摘出しても、あるいは臓器提供しても生命に影響がありません。その分、病状が進んでもなかなか気が付きません。本当に悪くなってくると、水分を排泄できなくなり、むくんだり心臓や肺に負担がかかったりします。また、尿毒症といって、老廃物が排泄できないための症状も起こります。血液透析が必要になる方もいらっしゃいます。

丸藤：患者さんの数は？

河村：函館市内で透析が必要な方が830名います。毎年30名くらい増えていますし、将来可能性のある方はとても多いです。

丸藤：透析は辛そうですね。

木村：1週間168時間かけてバランスよく自分の体の中で行われている働きを、週に3回、合計12時間程度でやろうとするので、体にはかなり負担がかかります。また、水分や老廃物を処理することはできますが、血液をつくるホルモンをつくるなど透析ではできないこともあります。今ではお注射などでできることも増えましたが、昔は透析に入って10年生きられたら凄いと言われていたんですよ。

丸藤：やはり移植をすると違うのですか？

河村：全然違います。もう透析は嫌ですもん。

木村：移植手術そのものがすごく安全になってきたし、免疫抑制も進歩しています。

丸藤：道南での腎臓移植の現状はどうなってますか？

木村：残念ながら今はストップしています。腎臓移植に慣れたお医者さんや看護師さんなどのスタッフがそろい全体の管理をしていかなくてはなりませんし、受けたいという患者さんと腎臓を提供なさってくださる方がある程度の数いて、初めて移植医療が成り立ちます。確かに地元で移植ができると患者さんにとっては楽ですが、移植施設としてどれくらいの実績を出せるのか慎重に考えなくてはなりません。手術は慣れた病院で行い、免疫抑制や通常の管理は地元で行うほうが良いという考え方もあります。

河村：奥が深いんですよ。

木村：いずれにしても、地域全体での取り組みが必要になります。

丸藤：腎臓移植にはどれくらいの日数やお金が必要なのですか？

木村：入院は、生体腎移植のドナー（提供者）で2週間くらい。レシピエント（受容者）で1ヶ月から2ヶ月くらいです。金額は条件によって違ってくるので答えるのは難しいでのすが、国の補助などがあるので心配しなくても大丈夫だと思います。国の立場から言うと、透析より移植のほうがはるかにお金がかからなくて済むんですよ。

丸藤：移植を受けられる年齢制限とか、条件はあるのですか？

木村：基本的にはその人が元気であればいいのですが、だいたい70歳くらいが目安です。下は1歳でも行います。提供する側で一番大切なことは、生体腎の場合ならば、腎臓を提供することでその後の寿命に影響しないということが一番の条件です。それから、癌などの大きな病気がないかどうかもチェックポイントのひとつです。

丸藤：腎臓が合う、合わないというのもあるのですか？

木村：あります。白血球に代表されるその人の型とか、血液型とか、物凄くこまかく分類されるようになっていて、合いやすさがわかるようになっています。理想は、一卵性双生児ですね。遺伝学的には同じですから。

丸藤：患者さんよりかなり多くの数の提供候補者がいなくてはだめだということですね。

木村：そうです。3月31日現在で、登録されている移植希望者数が12849名いるそうです。中には、20年以上合う腎臓を待っている方が660名もいます。その間に移植できない状況になってしまう方も、残念ながらいらっしゃいます。

丸藤：生体腎移植と献腎移植があると聞きました。

木村：生体腎移植というのは、ある程度身内で型が合い健康な方から提供を受けるものです。色んなことを調べ、お互いの体調の良い時に狙いを定めて移植をします。献腎移植というのは亡くなられた方からの提供です。いつどんな型の腎臓の提供があるか分かりません。提供の申し出があってから型の合う患者さんを探し、また提供後に臓器をレシピエントを手術する施設まで搬送しなければなりませんので、時間がかかります。従って、腎臓に多少のダメージが出てしまいます。献腎移植の方が少し生着率が悪いですが、それほど大きな差ではありません。

丸藤：献腎ならば、私も提供者の候補になれますね。

木村：本来であれば、献腎だと思います。健康な人の体にメスを入れて本来あるべきものを取ってというよりは、お亡くなりになった方からご提供いただいたほうが、心配や悩みの度合いを減らすことができると考えています。確かに生体腎の方が医学的に優位ですが、だからといってそれで良いとはならないと思います。

丸藤：普段私たちは何に注意したり、心がけておけば良いでしょうか？

木村：まずは病気にならないように、生活習慣病とかも含めたコントロールをしていくことが大事です。特に腎臓は無症状の臓器なので、定期的な健診受診をおすすめします。健診は、症状が無い人の中から問題になりそうな点を見つけ出し、次のステップとして精密検査を受けていいただき、必要があれば早めに介入することで将来を守るために受けるものです。何かで引っかかっても検査に行かないというのは、とても残念です。

河村：透析患者の中にも、医者任せで自分の状態に関心のない人が急激に増えています。

木村：それは良くないですね。

丸藤：やはり、自分自身の体に関心を持たなくてはいけませんね。

木村：それが一番です。あと、一般の方へのお願いとしては、移植という医療があることをもっと知ってもらいたい。何らかの形で関わるようになる可能性はいくらでもあります。そのためにも、7月26日のNPOまつりにぜひ来てもらい、腎友会のコーナーを見て話を聞いてもらいたいです。GLAYのコンサートの前にでも。充分間に合いますから（笑）

終

気がつけば函館市民になっていた。 Vol.9

市民による、市民のための町案内

函館移住を決心させた箱館歴史散歩の会

中尾仁彦さんの「箱館歴史散歩の会」が、5月29日をもって最終回を迎えました。ご本人の思うところあってのことと拝察しますが、多いときは参加者が150人にもなるというほど大盛況だっただけに淋しい限りです（最終回の参加者は、約180人に達しました）。

また私にとって、このようなユニークな会を独立独歩で開催している方がいらっしゃるということは、函館への移住を決心する大きな理由にもなりました。

全国どこの町にも郷土史の愛好家はいるでしょうし、私自身、旅先で地元市民による町案内に参加したことは1度や2度ではありません。世界遺産となった島根県の大森銀山でも、そういう会を体験しています。しかし、その中でも箱館歴史散歩の会が印象的だったのは、「観光」をまったく意識したものではないということでした。

もちろん噂を聞いて参加する観光客もいましたが（私も最初はその1人でした）、ご本人のお考えは、対象はあくまでも地元市民であるということで一貫していました。

また、多くが子育て終了世代という参加者に対して、「みなさん方のお子さんやお孫さんのほとんどは、高校を卒業すると函館を出ていくだろう。雇用機会の少ないことなどを考えると、それはもう仕方のないことかもしれない。だけど、この会で聞いて帰った函館の誇るべき歴史について、ぜひ、お子さんやお孫さんに話して聞かせて、函館を出ても函館への愛着を持ち続けるようになってもらいたい」と呼びかけられていたのでした。

「箱館歴史散歩の会」最終回（ハリストス正教会前）

語弊があるかもしれませんが、行政や観光業者が、外部の人たちに対してその町のことを良く言うのは、当たり前のことですし、それが仕事でもあります。たとえ過不足なく町の魅力を伝えていても、割り引いて聞いてしまうというのが、聞き手側の心理だと思うのです。

ところが箱館歴史散歩の会の場合、ご自身も函館市民である中尾さんが、函館市民に対して、函館の歴史を熱く語っているのです。そこに何ら損得勘定は感じられません。そういう場面を目の当たりにして、函館は魅力ある町に違いない、と私は確信したのです。

「面白さ」というもう1つの魅力

箱館歴史散歩の会は、平成20年4月10日の第1回から足かけ8年続きました。原則月2回、足元の悪い冬場は月1回の座学となり、実に137回も開催されました。案内する場所が重複することはあっても、その都度、テーマは異なりました。

市電を使った歴史散歩や五稜郭界隈の歴史散歩などもありましたが、基本的な対象地域は西部地区でした。1日もあれば十分に歩き尽くせるような狭いエリアで、中尾さんは100に及ぶほどのテーマを見つけられたというわけです。町に対する愛着と努力の賜物に違いありません。

そこそこ歴史のある町ですと、無理をすれば100くらいのテーマを立てられるかもしれません。しかしここまで回を重ねると、参加する方も飽きてくると思うのですが、箱館歴史散歩の会の参加者は常連さんが大半でした。要するに何度参加しても飽きないのです。

真面目な歴史の話なのに笑いが絶えない。内容やテーマの妙と相まって、話術が巧みでサービス精神も旺盛だったからだと思います。

近ごろはどこともに町歩きの会が盛んですが、このような会を成功させるには「真面目なだけではダメ、面白くなくてはならない」。これもまた、箱館歴史散歩の会から学ぶべき事柄ではないでしょうか。

★プロフィール★

大西（おおにし） 剛（つよし）さん

大阪出身。
2011年秋より、函館に移住。
「新函館ライブラリ」を設立し、函館発の電子書籍・印刷書籍の出版に取り組む。
2012年には、2008年秋からの函館通いで感じた町の魅力を綴った「新函館写真紀行」を出版。
現在は、移住サポーターとしても活躍している。

函館中途失聴者・難聴者協会

■どんな団体？

様々な原因で「耳が聞こえなくなった」「聞こえにくくなった」方（以下、中途失聴・難聴者）や、支援者が集い、相互親睦と福祉の向上、社会一般へ中途失聴・難聴について啓発することを目的としています。

■団体のPR

【意外と知らない「難聴」のこと】

会話は「言葉」が理解できることで成立しますが、中途失聴・難聴者の多くは、「言葉」が聞き取りにくくなる「感音性難聴」です。聞こえている方にとって、通常の会話は、特に意識しなくても聞き取れているため、難聴の聞こえにくさ、会話時の困難さは「気づかれにくい」と言われています。

相手の反応を気にして、中途失聴・難聴者から自発的に筆談や話し方（口元を見せて話す等）の配慮を言い出せず、あいまいな理解のまま自己不全感を感じることも日常茶飯事です。中途失聴・難聴者が、自分の聞こえや、必要な配慮を伝えることができるようになるためには、同じ境遇にある方や、要約筆記（文字通訳）者との交流が有効です。聞こえのことに気兼ねなく、お互いがコミュニケーションに配慮した会話経験を重ね、抱えている課題を共有することが、リハビリの役割を果たします。要約筆記等の社会資源にふれるきっかけにもなります。

■会員募集など

中途失聴・難聴者（正会員）と、健聴者（賛助会員）で構成されていますが、年齢層は20代～80代までと幅広く、聞こえの程度も様々です。会話は、筆談、補聴器等の活用、手話を併用する方もいます。中途失聴・難聴者当事者はもちろん、ご家族友人の方、要約筆記等に興味のある方等々基本的にどなたでも歓迎します！お気軽にご連絡ください。（例会等の見学も可）

■これからの活動

月1の例会では「茶話会」等の交流企画や、一般への「難聴、中途失聴」のことを啓発するための企画も実施します。原則として「要約筆記」を準備し、文字での情報共有を図っています。また、「手話」や「読話」（口形等から話を読み取る手法）等の会話補助手段習得の場を設けています。行事案内は隔月発行の会報「いやりんぐ」や、ブログ等で情報発信しています。

※携帯用ホワイトボード作成しています！

（掲載写真をご参照ください）

携帯用ホワイトボード

函館中途失聴者・難聴者協会

■代表者名／中川 ミツ子　■事務局／三好 昭博　■会員数／正会員:27名・賛助会員:35名
■FAX／050-3737-4593　■メール ak-miyos@sea.ncv.ne.jp
■ブログ　http://cyushitsukyo.seesaa.net/

NPO・市民活動団体紹介のページ

函館こども劇場

■どんな団体？

子どもの心が豊かに育まれ生き生きと生きていけるように、子どもの育ちに人の繋りと文化が大切と考え、「例会活動ー生の舞台を観ること」と、「自主活動ー遊びなどを通した人との関わりの場」を二つの柱としています。

嬉しさ面白さは人と一緒に感じると何倍にもふくらむ。ちょっとがまんした方がもっと楽しくなることもある。年や性格や色んな事が違っても、対等な仲間になれる。自分がいる事を喜んでくれる人がたくさんいる。

生の体験で心を大きく動かし、成長と自立を育む輪を地域に広げたいと活動しています。

伝承あそび

例会活動

■団体のPR

〈例会活動〉

子どもの成長を考え、生の舞台を年齢別に一年間一人四回鑑賞しています。

会員皆で選んだ作品を観て、様々な生き方を追体験し、多様な世界に出会えます。仲間と一緒に観ることで感動を拡げ、観た後に話し合う事でより深く味わう事ができます。

〈自主活動〉

身近な地域の仲間と相談し、計画し協力して活動を作ります。大勢の異年齢で関わる楽しさを季節にあわせた遊び会や伝承遊び等を通じて体感しています。

〈サークル〉

地域の子どもの周りに、子どもは異年齢の、大人は子育ての、仲間を作る身近な繋がりの場です。この活動が継続し拡がって地域を変える力になる事を目指しています。

こどもたちに豊かな心と喜びを！

■会員募集

いつでもどなたでも入会できます!!

会員制、月会費制で会を支え、母親たちが中心になって運営しています。

入会金200円、月会費1000円（4歳以上）です。3歳以下は、保護者が入会することで参加できます。最低1年間の継続をお願いしています。

舞台を観ること・遊ぶこと・子どもの「知り合い」になること・お母さん同士話ができること・子どもの異年齢集団をつくること・・・どれか一つでも「いいな！」と思える所があれば、ぜひ入会してください!!

入会手続きは、入会する月の会費＋入会金を申込書に添えて、事務局またはお近くの会員へお申し出ください。まずは、お問い合わせください。

函館こども劇場　函館市高盛町22番7号
10時～16時（土日・祝祭日はお休みです）

■これからの活動

7月13日（月）第231回例会（幼児例会）たかはしべんコンサート「ポケットいっぱいの歌とお話」　市民会館大会議室

心の栄養がたっぷりの舞台です。会員になって一緒に観ましょう！

他に地域ごとの遊びの会や乳幼児の会、全地域の高学年集会（小5以上）も随時行っています。入会前でも参加できますので、ぜひいらしてください。

函館こども劇場

■代表者名／和泉 佳代子　■事務局／渡部 清美　■会員数／310名（平成27年5月現在）
■電話／0138-55-3782　■FAX／0138-55-3782

NPOワンポイントアドバイス!!

～団体について、効率的に相手に伝えるコツ～

新年度になり新たな事業計画のもと活動を始めたり、新しい仲間を募集する
団体も多くなると思います。その時必要になるのが、団体の活動についてうまく伝えること。
今回は、そのコツをお伝えしたします。

●説明のための準備をしておく

○　普段から団体の活動内容をよく整理しておきましょう。
　団体紹介用のパンフレットとは別に事業紹介用パンフレットを用意し、以下の内容を盛り込むこと効果的です。

・　ミッション、ビジョン、事業方針（事業の柱）
・　団体の良さ、強み、ユニークさ
・　具体的な活動場面（写真付で）、実績
・　これから何を目指しているか
・　利用者、参加者、協力者の声
・　お願いしたり協力してもらいたい具体的な内容

この他に、過去に掲載された新聞記事などもコピーして用意しておきましょう。

●理解してもらうための話し方をする

　抽象的な言葉はできるだけ使わず、写真等を使い具体的な事例やデータ等を交えて説明しましょう。ひとつの話題を長々と話さず、ポイントを絞り短くまとめて話しましょう。

●参加や協力を得るために理解と信頼をしてもらう

　参加してもらいたい、協力してもらいたいなど行動を起こしてもらいたい時には、相手が理解しやすいよう具体的で現実的な提案をしましょう。また、団体の情報公開をするとともに、困っていることやマイナス情報も正直に伝えると、信頼を得ることにつながります。

参考:『NPOマネジメント 54号』IIHOE[人と組織と地球のための国際研究所]発行

センター長のつぶやき

まちづくりセンター センター長 丸藤　競

　私の座右の銘とまちづくりセンターの活動めあてが「毎日、笑ってもらいたい。」としているせいか、「笑いとまちづくり」について講演してくださいという依頼が時々あります。
　人々が争いを起こす理由の多くは互いを認められないからですが、では笑いはどんな時に起るのでしょうか。人が笑う理由は様々でしょうが、互いを受け入れ、違いに寛容でなければ楽しく笑うことはできないのではないかと思います。言いかえれば、笑いのある地域というのは「それぞれが違いを認め合っていて生きやすいまち」になるのではないでしょうか。
笑いには心も体も健康にする様々な効果が数多くあるそうです。実際、アメリカの研究では、笑いの多い人は笑わない人より7年も長生きするというデータがあります。笑いの多いまちは、「みんなが元気なまち」とも言えるかもしれません。
　笑いは伝染します。笑顔を見ると、顔の筋肉のコントロールが失われてしまい思わず笑ってしまうのだそうです。笑いは広がっていくのです。笑いに関しての研究はたくさんされていますが、難しい理屈は別にして、単純に、周りの人が仏頂面でいるより笑顔でいるほうが気持ちが良いですよね。
　笑いや笑顔にあふれいているまちを、みんなでつくっていきたいと思います。

チュニックフェア開催中！

福祉の店 どんぐり2号店
（まちづくりセンター1階）

函館山の緑が鮮やかに映える季節がやってきました。お天気の日は、おやつとお弁当をもってお出かけなんて最高ですね。そんな時お出かけ前にちょっと、地域まちづくりセンターへ足をお運びになって、是非、どんぐり2にお越しください。季節に合わせた商品や魅力いっぱいのお菓子など沢山ご用意いたしております。

■営業時間／10:00～16:00
■定休日／毎週日曜日・祝日・年末年始

製品は、函館市総合福祉センター1階・函館市役所地下売店でも販売しています。

DripDropには、飲み物や軽食の提供のほかに、もうひとつの仕事があります。それは各種チケットや書籍、CDなどの販売です。

毎年3月4月、カフェはおじいちゃんおばあちゃんで賑わいます。高齢者交通料金助成券の引き換えにみえるからです。もちろん一年中いつでもお取り換えいただけるのですが、年度が変わり、新しい助成券が届く時が一番賑わいます。

気候がよくなる今頃の季節も、観光のお客さまが市電の一日乗車券を求めていらしゃいます。ほかにも電車回数券や1000円～5000円のいかすカード（プリペイドカード）、電車・バス共通一日券、二日券なども取り扱っていますので、市民の皆さまもぜひご利用くださいね。

8月に元町公園で開催される「はこだて国際民俗芸術祭」のスポンサーパス、春と秋に開催されるバル街、12月のイルミナシオン映画祭。函館を代表する大きなイベントです。チケットの売り切れが早いイベントでもあります。

これらのチケットを始め市内で行われるコンサートやライブ、自主上映映画の入場券なども随時お取り扱いしております。催し物を主催される方もぜひお気軽にお越しください。
ポスターやフライヤー（チラシ）をお忘れなく。

書籍のお取り扱いもずいぶん増えました。
函館の歴史関連、街あるき、花の本、映画関連などなどジャンルはさまざま。カフェやまちセンの本コーナーに閲覧用が置いてあります。手にとってご覧ください。
ときどきカフェブログでもご紹介していますので、のぞいてみてくださいね。

cafe Drip Drop ★米田尚子

煎りたて珈琲と
地物野菜メインのお食事

cafe DripDrop
カフェ ドリップドロップ

取り扱い書籍の一部

■営業時間／10:00～18:00
■定 休 日／水曜日

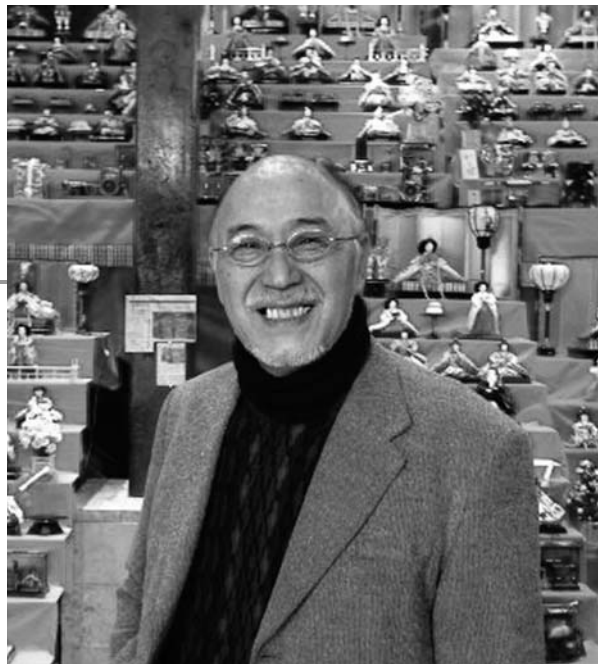
ホームページ　http://handpick.cafecoocan.jp/

特集 はこまち対談

Part 31

「手づくり」と「人」を大切にしていきたい。

今回は、「江差の持つ宝物」を活かした
まちづくりをしている室谷元男さんに
お話をお聞きしました。



室谷（むろや） 元男（ともお）さん

Tomoo Muroya

◆プロフィール

1950年江差町生まれ。
1968年江差高校を卒業後塗料メーカーにて研修する。
1971年江差に戻り家業を継ぐ。
1992年より江差町歴まち商店街組合の理事長に就任。
2015年2月に理事長を退任して監事に就任。
歴史を生かした町づくりをベースに、商店街や地域活動を実践中。

【聞き手】地域交流まちづくりセンター　センター長
丸藤　競（まるふじ きそお）

丸藤：江差のまちづくりを長年やっていますが、活動のきっかけは？

室谷：今から25～6年前に北前船の大回航がありました。高田屋嘉兵衛の辰悦丸が復元され、淡路島から五十日かけて江差にも来ることになったのですが、どうやって受入れようかと。当時は道路も狭いままで古ぼけた何もない町と言われてたんですけど、仲間と一緒に町をもう一回見つめ直そうということになったんですね。

丸藤：最初は何をしたんですか？

室谷：今いにしえ街道と言われている下町に古い建物が残っているんでどう活かすか？その家に伝わっている古いものや、どんな人がいるんだろうかということをみんなで話したんです。すると、古ぼけたものの中に物語があったり歴史があったりするということで、これはもしかしたら大事なものじゃないのかということが分かって来たんです。

丸藤：商店街のみなさんの意識は変わりましたか？

室谷：古い建物や空き店舗を活かしたり、開陽丸をテーマにした江差幕末物語を野外劇でやったりして、自分達の町の歴史を体現して表現しました。やっているうちに、町並みを整えて観光客をたくさん呼ぶよりも、ここに住んでいる人たちが楽しく暮らせ、外から来る人たちと楽しく交流できていければいいなというのがだんだん分かってきたんです。一気に200人が来るより、5人でもいいから何回か来てくれて気持ちが通じた方が感動が大きいでしょ。

丸藤：気持ちでつながっていくんですね。

室谷：松村隆さんが主催している雑誌『江さし草』の「歴まちを歩く」というコーナーで一軒一軒のお宅に行ってお話を聞くんですけど、それが凄く面白い。それで、100人の語り部の町というのができました。語りをテーマに楽しくやっていこうかなぁと。

丸藤：つながっていきますね。

室谷：人だと思うんです。波長が合う人と行き合うことが凄く多いですね。花嫁行列するから来ませんかというと来る人がいるっしょ？

丸藤：私もつい乗せられて…（笑）

室谷：でも、来ると面白いっしょ（笑）そういうつながりが一番大事で

すね。人数だとか金額だとかの数字だけで一喜一憂するより、来た人と交流できて楽しかったと言う方がよっぽど豊かなんじゃないかと思うんですよ。いいものが積み重なって、想いが染み込んでいくとまちが豊かになって、自分も豊かになっていけるんでないかなあ。

花嫁行列

丸藤：街並みが変わりましたね。

室谷：彦根の夢京橋の街路事業を見てきたんですが、漆喰をやって瓦あげてとちゃんとやってるんです。江差はそれができませんでした。歴史の染み込み度合いが違うと感じました。江差も50年後には一つ一つの建物を作りかえる時が来るんですよね。その時どうするか、やはり染み込み具合だと思います。それは自分達に対する評価だと思うんです。楽しく愛着が感じられるようなまちづくりをしていかなくちゃだめだなあとは思ってるんですけど。

丸藤：江差らしさをどう育てるか。

室谷：いにしえ街道の真ん中にある姥神大神宮は、おりんさんというおばあさんの伝説がもとになっているんだけど、飢饉で喘いでいるとミシンをとって飢えをしのぎなさいと授かるんです。でも、小さな魚は逃がすようにしなさいなど、漁で大儲けするのではなく代々、持続可能なことをしていきなさいという教えなんです。あんまり背伸びしないでやっていけばいいのかなって思ってます。

丸藤：手づくりですね。

室谷：それが基本ですよ。

丸藤：それに、凄いユニークな人たちが集まってますね。

室谷：それが一番ですよ。人がいなきゃだめですよ。全てが人だと言ってもいいくらいですよね。楽しいですもん。

丸藤：年齢層から立場まで幅広い人たちが、やれることを出し合ってる感じがします。

室谷：本当に広くなったと思いますね。全国の半島の人たちとも連携がとれてるし、行政の方も仕事を抜きにして楽しく関わってる感じです。

丸藤：これからの夢は？

室谷：職人さんや手仕事の人たちが住めるまちになればいいなと思っています。それと、宿泊施設がまだ足りないので、古民家を利用してゲストハウスみたいのを作りたいんですよ。仲間が来たらそこに泊まって、懇親会やれればいいなとか。あとは、空地空き店舗があるので、食べ物とかの店づくりをする若い人たちがいればいいなと思います。パン屋さんが5年前に来たんだけど、そのことでずいぶん変わったと思うんですよね。だから、一緒にまちづくりをやりながら商売できていくと、次の世代にいいのかなと思って。

江差・北前のひな語り～歴まちのおひなさん～

丸藤：函館の人へのアドバイスをお願いします。

室谷：もっと自由にできるのにね。あまり大きいことしないでね。シャイですよね。頭でっかちじゃなくて、体で表現していけばいいのに泥臭くてもいいから。

丸藤：見方をちょっと変えるだけでいい。

室谷：あれがダメこれがダメって言うよりも、あれがいい、これがいい、こんないい人が居たって言う方が楽しいですよね。面白い人とちゃんと連携していくとね、だんだんと広がりができる。

丸藤：江差の魅力が分かります。でも、時間もかかりそうですね。

室谷：時間かかりますよ。かけなきゃだめですよ。じっくり染み込んでいくことが大事だと思うんですよ。

終

■施設利用料金

フロア	区分	ご利用料金 単位	ご利用料金 金額	備考
市民交流フロア（2F）	研修室	1室1時間までごとに	500円	
	フリースペース	1日につき	10,000円	約272m²
	フリースペース（営利目的）	1日につき	20,000円	営利目的（販売等）
市民活動支援フロア（3F）	会議室	1室1時間までごとに	500円	
	貸し事務ブース（8区画）	1区画1ヵ月につき	3,000円	1区画4m²
	ロッカー（大）	1個1ヵ月につき	400円	
	ロッカー（小）	1個1ヵ月につき	200円	
駐車場（約30台駐車可）	・普通自動車 ・小型自動車 ・軽自動車	●2時間無料、超過30分までごとに100円 ※1Fインフォメーションに車のキーをお預けください。 ※駐車場は、南部坂側よりお入りください。		

※入場料を徴収したり、物品を販売する等、営利目的で使用する場合は、割増料金となります。詳しくはおたずねください。

■印刷機使用料金

※用紙代別

① 製 版 代／1枚……100円

② 印刷枚数／10枚まで……10円
（以後10枚毎に10円加算となります。）

※① 製版代 ＋ ② 印刷枚数が必要です。

※印刷用紙は各自でご用意ください。

■コピー料金

① 白 黒／A4・B4・A3 ……1枚 10円

② カラー／A4・B4 ……1枚 50円

③ カラー／A3 ……1枚 100円

■横断幕プリント／ポスタープリント料金

※用紙代含む

① 610mm×1.5m……1枚 2,400円

② 610mm×3.0m……1枚 2,600円

③ 610mm×4.0m……1枚 2,900円

④ 610mm×5.0m……1枚 3,200円

⑤ A2版（420mm×594mm）1枚 1,200円

⑥ A1版（594mm×841mm）1枚 1,400円

※横断幕は文字原稿、ポスターはチラシ又はPDF形式で原稿をお持ちください。

■備品利用料金

備品名	利用料金
音響機材（研修室・会議室用）	1,000円
音響機材（フリースペース）	2,000円
プロジェクター	1,000円
スクリーン	500円

※上記以外の備品もあります。ご相談ください。

■活動支援費

……要相談 500円～

■【各施設の使用申し込みについて】

●利用日時、利用目的をご確認のうえ、TEL.0138-22-9700、または、函館市公共施設予約システムよりお申し込みください。

https://yoyaku.e-harp.jp/hakodate/

利用区分	受付日
研修室・会議室	使用日の3ヶ月前の属する月の初日から使用日の前日までです。
フリースペース	使用日の6ヶ月前の属する月の初日から使用日の7日前までです。

【お問い合せ】

函館市地域交流まちづくりセンター

〒040-0053 北海道函館市末広町4-19

TEL.0138-22-9700 開館時間 AM9:00～PM9:00

FAX.0138-22-9800 休館日 年末年始（12/31～1/3） ※器材点検のため月1回程度臨時休館する場合があります。

ホームページ http://hakomachi.com/ 函館 まちセン 検索

【指定管理者】NPOサポートはこだてグループ